

## 主イエスの憤り

(ヨハネ11・38〜44)

## 一、主イエスの憤り

38節をご覧ください。イエスは再び心のうちに憤りを覚えながら、墓に來られた。墓は洞穴で、石が置かれてふさがれていた。とあります。ここに、主イエスが憤られた、しかも再び憤られた、と記されています。元のことばは「怒って鼻を鳴らす」からできたもので、「激しく憤る」の意味です。主イエスの憤りとは何だったのでしょうか。

一行がベタニアに着かれたとき、ラザロが死んで墓に葬られてから四日が経っていました。腐敗が始まっている時期です。11章33節をご覧ください。イエスは、彼女が泣き、一緒に來たユダヤ人たちも泣いているのをご覧になった。そして、靈に憤りを覚え、心を騒がせて、とあります。ここに、一回目の「憤り」が書かれています。

続く34節、35節に、彼をどこに置きましたかと言われた。彼らはイエスに「主よ、来てご覧ください」と言った。イエスは涙を流された。と書かれています。憤りに続いている涙とは、どのような涙だったのでしょうか。これについても考えてまいります。

まず憤りですが、その意味は、私たち

の人生を失意の底へと落としてしまう死に対する憤りです。いつの時代にも、死を美しく捉える受け止め方がありません。そういった受け止め方をしていたら、主イエスが抱いた憤りの意味が分かりません。主イエスは、死についてどのよう

に捉えていたのでしょうか。その場合の死とは、キリストによる救いの業が実現する前の「罪人の死」です。パウロは、キリストによって現された御業により「死は勝利に呑み込まれた」と、イザヤ書のことばを引用して語りました。しばしば聞く「死は新しい世界への旅立ちである」は、聖書が語るメッセジと相容れません。「死」は敵です。「死」は、これまで続いてきた人生を「かち壊してしまふ非常な力であり、敵です。マルタ、マリヤ、ラザロの家族を襲った死は、この見地から見なければ分かりません。主イエスはラザロを愛しておられました。だから、マルタ、マリヤ、ラザロの家族を襲った死に対して、激しく憤られた。これが、この箇所の意味のようです。それを取り違えて、「ここに書かれている憤りは、死人が生き返ることを信じようとしなかった、不信仰に対する憤りである」としてしまえば、ポタンを掛け違えたようになり、いつまで経っても分からなくなってしまう。

さらに、主イエスが流された涙の意味も見えてまいります。35節に「イエ

スは涙を流された。」とありますが、これは愛するラザロが死んでしまったことに対する涙です。同時に、マルタ、マリヤから日常を奪ってしまった死に対する怒りの涙です。

## 二、ラザロが生き返った

主イエスは、御自身が今から行うことが父のみこころであることを知っておられました。ラザロが病であると聞かれた時、次のようにおっしゃったからです。11章4節です。「これを聞いて、イエスは言われた。『この病気は死で終わるものではなく、神の栄光のためのものです。それによって神の子が栄光を受けることとなります。』と。ゆえに

主は、ラザロを襲った死に対して、またマルタとマリヤを襲った「弟の死」に対して憤りを覚えると同時に、今から自分を通して父をなさろうとしていることを、ご存じでした。こうして39節以降、主イエスは父から聞いた通りのことを行っておられます。39節です。イエスは言われた。「その石を取りのけなさい。」死んだラザロの姉妹マルタは言った。「主よ、もう臭くなっています。四日になりますから。」とあります。主イエスは、石を取りのけ、祈られ、叫ばれました。43節です。「さう言うてから、イエスは大声で叫ばれた。『ラザロよ、出て来なさい。』と。すると死んで、墓に納められ、四日も経っていたラザロ

が生き返りました。

ラザロの生き返りは、主イエスが行われた、数々の死人を生き返らせる奇跡の中でも、やがて起こる復活に、やや近い奇跡です。もちろんラザロはやがて死にました。ですが、1世紀の教会はラザロの生き返りに、死者のよみがえり、すなわち復活を見たことはたしかです。最初によみがえった死者はイエス・キリストです。キリストは、地上の肉体としてよみがえられたのではなく、天上に属するからだとして、すなわち栄化されたからだによみがえらされました。やがて、主を信じる私たちもキリストの復活のさまと同じようになりま

す。ところが復活は、キリストを信じる者の靈において起こりました。そのことを何回も語っているのがパウロです。ローマ人への手紙6章4節、5節です。「私たちは、キリストの死にあずかるバプテスマによって、キリストとともに葬られたのです。それは、ちょうどキリストが御父の栄光によって死者の中からよみがえられたように、私たちも新しいいのちに歩むためです。私たちがキリストの死と同じようになつて、キリストと一つになっているなら、キリストの復活とも同じようになるから

です。」と。キリストを信じる者は、靈において復活のいのちにあずかっています。